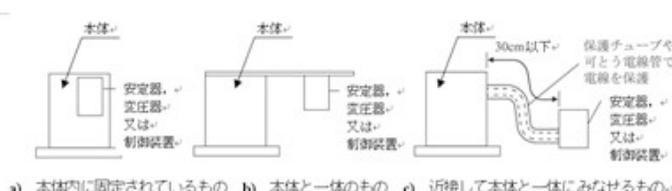
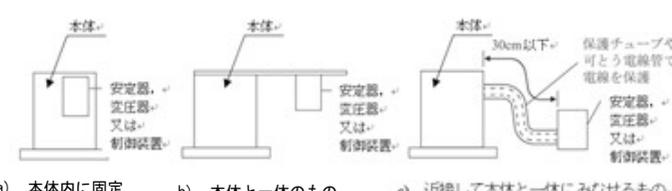
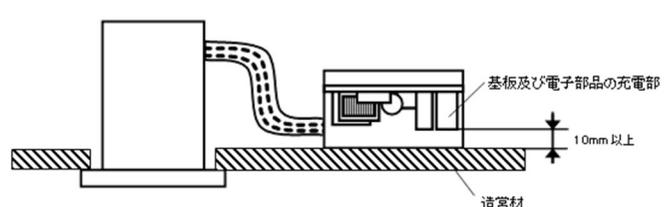
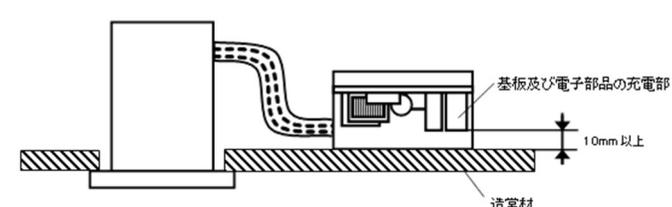


JIL5002:2018「埋込み形照明器具」正誤表

2020年1月15日
(一社)日本照明工業会

頁	対 象	誤	正
P2	3.2 S (エス) 形埋込み 形 照明器具	詳細については解説の箇条 3(主な改正点)の <u>c</u> を参照	詳細については解説の箇条 3(主な改正点)の <u>d</u> を参照
P4	5.3 器具構成 図 1－安定器，変圧 器又は制御装置内蔵 のもの	器具構成の種類に於いて、下線の表示文字位置に誤りがあった。  <p style="text-align: center;">a) 本体内に固定されているもの b) 本体と一体のもの c) 近接して本体と一体にみせるもの</p>	下線の表示文字位置を見直した。  <p style="text-align: center;">a) 本体内に固定されているもの b) 本体と一体のもの c) 近接して本体と一体にみせるもの</p>
P5	7 構造、部品及び配 線 7.1 構造及び部品 図 3	 <p style="text-align: center;">図 3－基板及び電子部品の充電部と造営材の離隔距離</p>	 <p style="text-align: center;">図 3－基板及び電子部品の充電部と造営材の離隔距離 (図 1 の C) 及び図 2 の a) の例)</p>

P6	10 機械性能	耐衝撃性能は、JIS C 8105-1 の 4.13（機械的強度）による。耐湿性は、9.3（耐湿試験）による。また、防水性を有する器具の透光カバー1)に水がかかる可能性がある場合は、耐熱衝撃性能を確認しなければならない。耐熱衝撃性能は、 <u>温度上昇後</u> 、周囲温度より 10 K 低い温度（4 °C 以下の場合は 4 °C とする）の水を毎分約 3 mm の水量で約 45 °の傾斜方向から降雨状態で一様に注水したとき、各部に異常が生じてはならない。	耐衝撃性能は、JIS C 8105-1 の 4.13（機械的強度）による。耐湿性は、9.3（耐湿試験）による。また、防水性を有する器具の透光カバー1)に水がかかる可能性がある場合は、耐熱衝撃性能を確認しなければならない。耐熱衝撃性能は、 <u>温度上昇安定後</u> 、周囲温度より 10 K 低い温度（周囲温度 4 °C 以下の場合は 4 °C とする）の水を毎分約 3 mm の水量で約 45 °の傾斜方向から降雨状態で一様に注水したとき、各部に異常が生じてはならない。
P11 附属書 A	S 形埋込み形器具の表示マーク 2)SGI 形器具の表示マーク		
P.15 解 1	埋込み形照明器具 解説 3 主な改正点 b) 引用規格（箇条 2)	JIS A 9521, JIS C 7527, JIS C 7551-1, JIS C 7551-2 及び JIS C 8106 の規格名称の変更, JIS C 8158（一般照明用電球形 LED ランプ（電源電圧 50V 超））, JIS C 8159-1（一般照明用 GX16t-5 口金付直管 LED ランプ-第 1 部：安全仕様）, JIS C 8159-2（一般照明用 GX16t-5 口金付直管 LED ランプ-第 2 部：性能要求事項）, JIL 5501（非常用照明器具技術基準）, 技術資料 140（非常用照明器具試験細則）の追加, 技術資料 115 をガイド 115 へ変更した。	JIS C 60695-2-11 耐火性試験－電気・電子－第 2-11 部：グローワイヤ／ホットワイヤ試験方法－最終製品に対するグローワイヤ燃焼性指数（GWEPT）, JIS C 60695-2-12 耐火性試験－電気・電子－第 2-12 部：グローワイヤ／ホットワイヤ試験方法－材料に対するグローワイヤ燃焼性指数（GWFI）, JIS C 60695-2-13 耐火性試験－電気・電子－第 2-13 部：グローワイヤ／ホットワイヤ試験方法－材料に対するグローワイヤ着火温度指数（GWIT）, JIS C 61000-3-2:2011（電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当りりの入力電流が 20 A 以下の機器））, CISPR 15（Limits and methods of

			<p>measurement of radio disturbance characteristics of electrical lighting and similar equipment) , JIL 5501 非常用照明器具技術基準) , JIL 7002 照明器具の表示箇所標準, 技術資料 141 埋込み形照明器具温度試験細則, ガイド A102 照明器具の銘板等の表示の追加, JIS A 9521 及び JIS C 8106 の規格名称の変更, 技術資料 115 をガイド 115 へ変更した。</p> <p>さらに、この規格に関連する引用されていない情報又は指針を参考文献にまとめた。</p>
P.16 解 2	3 主な改正点 k) 施工上の注意	3) 送り接続端子を配線の送り接続端子に表現を見直した (g) 項)。	3) 送り接続端子を送り配線の接続端子に表現を見直した (g) 項)。
P.16 解 2	3 主な改正点 l) 検査方法	l) 検査方法 (5.3) 関連する JIS の項目を追加した。	l) 検査方法 (15.3) 関連する JIS の項目を追加した。
P.18 解 4	4 その他の解説事項 b)	断熱材の耐熱温度は, グラスウールは 300 °C, ロックウールは 600 °C であり, セルローズファイバーは 130 °C から黄変が始まるが, 雰囲気温度 140 °C, 24 時間で異常がないため問題はない。また, グラスウールの表被材料の引火性ガス発生温度 200 °C であり, 特に問題はない。	断熱材の耐熱温度は, グラスウールは 300 °C, ロックウールは 600 °C であり, セルローズファイバーは 130 °C から黄変が始まるが, 雰囲気温度 140 °C, 24 時間で異常がないため問題はない。また, グラスウールの表被材料の引火性ガス発生温度は 200 °C であり, 特に問題はない。